

**Sincerest Condolences over the Passing of**  
**Father Claude Roberge (1928-2019)**  
(宣教師・大学教授 クロード・ロベルジュ神父  
[1928-2019] を偲んで)

Richard Leclerc\*

日本のフランス語教育と日本人のフランス語習得法の改良のため、60年以上にわたって研究に邁進されたクロード・ロベルジュ神父が、2019年8月9日、日本における後のケベック出身イエズス会宣教師として、東京にて逝去されました。

クロード・ロベルジュ神父は、1928年9月10日にサントル＝デュ＝ケベックのサン＝フェルディナンで生まれ、シエブルクのサン＝シャルル＝ボロメ神学校で学業を修めた後、1948年にイエズス会士となりました。1955年にコレージュ＝ド＝リマキュレ＝コンセプションで哲学の学士号を取得し、1956年にケベックを離れて来日した後、1962年には東京の上智大学で神学の修士号を取得（ちなみに、上智大学は、1913年にドイツのイエズス会士たちによって設立された大学です）、同年3月18日に司祭に叙階されました。1971年にはベルギーのモンス大学にて言語学の修士号も取得されています。

宣教を目的に来日したものの、日本人にとってなじみの薄い宗教を信じることは一般に困難なことであると、他の宣教師たちと同じくロベルジュ神父もすぐに気が付きました。ヴァチカン（聖座）は当時まで少数派だったカトリック信仰を日本に根付かせようと、第二次大戦後の日本における宣教活動に力を注いでいました（現在、日本の人口の1パーセントがキリスト教徒です）。民主化と国家の再建が、カトリック信仰とその活動を広げるために有効に作用すると考えられていたのです。また、当時のカトリック教会はアジアにおける共産主義の拡大に対抗する砦としても期待されていました（長年にわたる軍国主

---

\* リシャール・ルクレール Ph.D. Independant Researcher in Québec and Japanese Studies.

義の後、社会がイデオロギー的なよりどころを求めているような時代に、共産主義は日本の若者を引き付けた主義の一つでした。

日本人と交流するため、日本での宣教活動にカトリック教会がよく用いた方法である「教育」にロベルジュ神父も専心しました。と同時に聴覚障害者と日本人生徒向けの言語習得方法の改良にも関心を持たれておりました。

1966年4月からは上智大学でフランス語・音声学・言語学を教え始め、1996年のご退職まで、外国語学部フランス語学科学科長(1977-1981年)、聴覚言語障害研究センター(現言語聴覚研究センター)センター長(1979-1996年)、上智大学大学院外国語学研究科言語学専攻主任(1989-1993年)、上智大学大学院外国語学研究科委員長(1991-1993年)を歴任されました。

上智大学ご退職後は群馬県館林市にある関東学園ヴェルボトナル研究所の所長(1998-2005年)を務め、その後も2011年までは同研究所の顧問として研究活動を続けられました。1998年4月1日には研究と教育の進歩への類まれな貢献に対する感謝のしるしとして上智大学から名誉教授の称号を授与されています。

こうした長いキャリアの中で、外国語習得方法、特にフランス語習得方法の改良について、数多くの研究論文や著書を残されています。その大半が日本語で発表されているとはいえ、ケベックの図書館で閲覧できず、ケベック内でその功績が認められていないというのは、大変残念なことです。レジオン・ドヌール勲章オフィシエ受章者であるクロアチアのペータル・グベリナ教授が提唱したヴェルボトナル法の信奉者でもあり、グベリナ教授の主要な研究成果を自ら編集した仏語論文集 *Rétrospection* の英語版・クロアチア語版・スペイン語版・日本語版も、編者として晩年に出版しています。

1956年にケベックを離れたとはいえ、ロベルジュ神父は祖国に深い愛着を持ち続けていました。ロベルジュ神父の教育と研究を通じて、フランス語とケベックが日本の学生に知られるようになりました。神父はまた、上智大学アメリカ・カナダ研究所の所員でもありました。この研究所のカナダ部門は、ロベルジュ神父と同じイエズス会士であったコンラッド・フォルテン元教授が主催した「カナダセンター」を前身としています。フォルテン元教授も上智大学で数十年間教鞭をとった後、モンリアル(モントリオール)で2001年に逝去されました。

20年以上に渡り、私はロベルジュ神父に何度もお会いし、研究やケベックの発展(ロベルジュ神父はデュブレシ時代にケベックを離

れています) について、様々な意見を交換しました。経済大国の中でも日本が戦略的役割を占めるようになる今日までをつぶさに見て来られ、あらゆる方面における日本再建と発展の生き証人の一人でした。神父のお力により、ケベックとフランス語文化が日本人により広く、深く理解されるようになり、私も第二の祖国となった日本を更に愛するようになりました。生前のご厚情に深く感謝すると共に、ご功績を偲び、安らかな眠りにつかれますよう、心よりお祈り申し上げます。